

## シンポジウム

子どもの非行防止 日本一をめざして



# シンポジウム「子どもの非行防止 日本一をめざして」

## 開催趣旨

田 村 正 博

社会安全・警察学研究所 所長

京都産業大学法学部 客員教授

当研究所は、一昨年〔2013年〕の4月に設立されました。子どもと安全、とりわけ非行防止および立直り支援ということを中心に、さまざまな調査研究をしてまいりました。あわせて、シンポジウムを2回開催してきたところでございます。

子どもの非行を防ぐ、非行や問題行動のある子どもが立ち直るよう支援をする、ということには、子どもと関わる多くのさまざまな機関、そして人々の活動が必要でございますし、現に展開されています。実際に調査研究してみると、各地でそれぞれ本当に多くの人たちが考えて、いろんな取組みをなされているということを痛感いたしました。しかし、そういったことが、必ずしもみんなに知られているわけではない。それを組み合わせることによって、より良いものができるのではないかと。そして、制度もそうでございますが、担当する人たちの努力によって、高いレベルで子どもへの向き合いが行われている地域も多くございます。そういった経験も、ぜひ交流できればという思いがございました。

そこで今回、「子どもの非行防止 日本一」をめざすという、いささか大それた名前を付けたシンポジウムを開催することにいたしました。とりわけ子どもの非行防止は、狭い意味の非行段階というだけではなく、保護者への啓発、あるいはハイリスクな家庭への支援、そして1回非行に走った子どもが本当に就労するまで、そういうものまで含めた幅広いものであるべきでありますし、それが適切だということが、世界的な水準ともなっております。

ただ、それを現実に実行するのはなかなか難しいところがありますが——私の知る限り——昨年〔2014年〕のことでありますが、高知県が、「高知家の子ども見守りプラン」というものを作られました。そうとう包括的なプランでございますので、高知県の部長さんにわざわざ来ていただきまして、それをまずご紹介をしていただきたいと思います。子ども・若者全体について、内閣府担当審議官にもおいでいただきましたので、そのご説明もいただきながら、その後、研究者そして多くの実務家の方々によって、優れた施策あるいは理論的な背景についてのお話をしていただきたいと思います。

私は、今回のシンポジストをお願いするにあたりまして、本当に優れた方に、そして先進的な施策をしているところに、お願いをしてまいりました。ただ、それだけでは、どうしても限られた地域でしかありません。今回会場には、さまざまな地域で取り組まれている方たちにおいでいただきました。シンポジストの方々だけでなく、フロアの方々が、積極にご発言をいただき、ご意見を交換していただくことによって、はじめて、子どもの非行防止日本一をめざす、という本シンポジウムが成立するのだと思います。どうか皆さま、積極的なご参画をよろしくお願い申し上げます。

